

タケノコ（普通）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培体系	<p>The diagram shows a horizontal axis from 1 to 12. A box from 3 to 6 is labeled '地下茎伸長' (underground stem elongation). A line from 1 to 6 is labeled 'タケノコ肥大' (bamboo tuber growth). Another line from 6 to 11 is labeled '地下茎伸長'.</p>											
	<p>主な作業</p> <p>1: 施肥 (fertilization), 2: 土入れ (soil addition), 3: 親竹選択 (parent bamboo selection), 4: 施肥 (fertilization), 5: 親竹摘芯 (parent bamboo top removal), 6: 施肥 (fertilization), 7: 除草 (weeding), 8: 除草 (weeding), 9: 親竹伐採 (parent bamboo harvesting), 10: 親竹伐採 (parent bamboo harvesting), 11: 施肥 (fertilization), 12: 土入れ (soil addition)</p>											

タケノコ イネ科、原産地：中国

作物名 タケノコ

学名 *Phyllostachys bambooshoot*

作型 タケノコ

技術体系

1 作型の特徴

タケノコの出盛りの頃から親竹の落葉が始まり、出終わった頃に地下茎が伸長を始め、降霜の頃伸長を止める。地下茎の各節に芽子が分化着生し、これがタケノコとなる。

普通栽培の他に、有機物の発熱を利用したり、ビニルマルチ、電熱線などを利用した早出し栽培があり、労力の分散と所得の向上が図られている。

2 栽培条件

(1) 温度

通常2年生以上の地下茎の芽子が、夏頃から伸長肥大を開始し、地温5℃以上の期間は伸長肥大を続け、それ以下では停止している。地温が10℃に近づく頃地上に出てくる。

(2) 土壌条件

東～東南面の平坦～緩傾斜地で、排水のよい所が最適で、南面は早出しにはよいが、夏期に高温・乾燥害を受けやすい欠点がある。

苦土が多く、腐植は1%程度、置換容量が大きく、弱酸性の壤質から植質の粘質土壌が適している。

栽培技術

1 親竹の新植

開園には、10a 当たり 30～50 株の親竹の地下茎を 50cm 程度つけて植える。

親竹は、その年の比較的早く発筍したもので、稈周 20cm 程度の小ぶりで、淡黄色で生気にとんだ若い地下茎から出たものを選ぶ。

植え付けは 10 月頃が最適で、植穴は直径 1.2m、深さ 50cm 程度とし、土と根株がよくなじむようにする。

稈は枝葉を 5 節程度に切り縮め、蒸散面積を少なくする。

2 施肥

施肥量 (kg/10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	14	8	11	5月下旬～6月下旬
追肥	14	4	6	7月中旬～8月下旬
〃	6	3	5	11月～2月
合計	34	15	22	

3 収穫後の管理

収穫後は親竹の周囲を主体に、主に穴肥で施肥する。新しく親竹としたものは、18 節程度で先止めする。

4 夏期の管理

竹の育成のために追肥を行い、肥効と水分が最も

重要であり、また、除草作業を行う。

5 秋期の管理

親竹の生産力は5～6年なので、6年生の竹を伐採して、親竹の更新を行う。親竹の本数は10a当たり150本程度とする。

6 晩秋～冬期の管理

保温をかねて敷きワラ、土入れをする。

7 春期の管理

灌水がタケノコ肥大に大きく働く。

収穫はタケノコの先が地上に出る前に、地下茎との接合部を切断する。

出盛り期までに、親竹として残すタケノコを決め、毎年25本程度を更新する。